

千葉市感染症発生動向調査情報

2024年 第17週 (4/22-4/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		定点	17週	16週	15週	14週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの報告数		小児科	17	18	18	18
		眼科	5	5	5	5
		*インフル/COVID	26	28	28	28
	「定点当たりの報告数」とは 報告数/報告定点数	基幹	1	1	1	1

*正式名称は
インフルエンザ/COVID-19定点

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	4/22-4/28	4/15-4/21	4/8-4/14	4/1-4/7	4/15-4/21
			17週	16週	15週	14週	16週
小児科	RSウイルス感染症	◎	30 1.76	20 1.11	14 0.78	15 0.83	181 1.44
	咽頭結膜熱		4 0.24	0 0.00	1 0.06	7 0.39	56 0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	52 3.06	59 3.28	72 4.00	55 3.06	726 5.76
	感染性胃腸炎	○	97 5.71	89 4.94	77 4.28	70 3.89	530 4.21
	水痘		5 0.29	2 0.11	3 0.17	0 0.00	21 0.17
	手足口病		0 0.00	5 0.28	7 0.39	2 0.11	23 0.18
	伝染性紅斑		1 0.06	1 0.06	2 0.11	1 0.06	7 0.06
	突発性発しん		7 0.41	9 0.50	4 0.22	7 0.39	34 0.27
	ヘルパンギーナ		1 0.06	1 0.06	2 0.11	0 0.00	3 0.02
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	2 0.11	1 0.06	15 0.12
* インフル /COV ID	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		10 0.38	43 1.54	63 2.25	128 4.57	452 2.24
	新型コロナウイルス感染症	↓	51 1.96	74 2.64	82 2.93	79 2.82	805 3.99
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.09
	流行性角結膜炎		1 0.20	1 0.20	1 0.20	2 0.40	19 0.58
基 幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少
「流行中」 流行発生警報開始基準値以上
「やや流行中」 流行発生注意報基準値以上、又は流行発生警報開始基準値を下回った後に流行発生警報終息基準値以上

2 全数報告対象疾患: 4 例

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	20歳代	臨床決定	結核	女性	30歳代	IGRA検査
	男性	20歳代	IGRA検査		男性	50歳代	

・第17週は、結核4例(55)の発生届があった。

※ ()内は2024年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第17週のコメント

＜RSウイルス感染症＞

前週より増加し1.76となった。過去10年の同時期と比べると最多で、年齢階級別の報告数は1歳が最多。区別では、緑区(6.00)からの報告が最多で1歳の報告が最も多かった。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

前週よりやや減少し3.06となった。過去10年の同時期と比べると多い。年齢階級別の報告数は7歳が最多。区別では、稲毛区(6.33)からの報告が最多で8歳の報告が最も多かった。他に緑区(4.33)が流行発生警報終息基準値(4.0)を上回った。

＜感染性胃腸炎＞

前週よりやや増加し5.71となった。過去10年の同時期と比べるとやや多めで、年齢階級別の報告数は5歳及び8歳が最多。区別では、若葉区(25.50)が流行発生警報開始基準値(20.0)を上回り最多で1歳の報告が最も多かった。

＜新型コロナウイルス感染症＞

前週よりやや減少し1.96となった。年齢階級別の報告数は10-14歳が最多。区別では、中央区(5.40)からの報告が最多で10-14歳の報告が最も多かった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

- ・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2024.pdf>

- ・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2024.pdf